

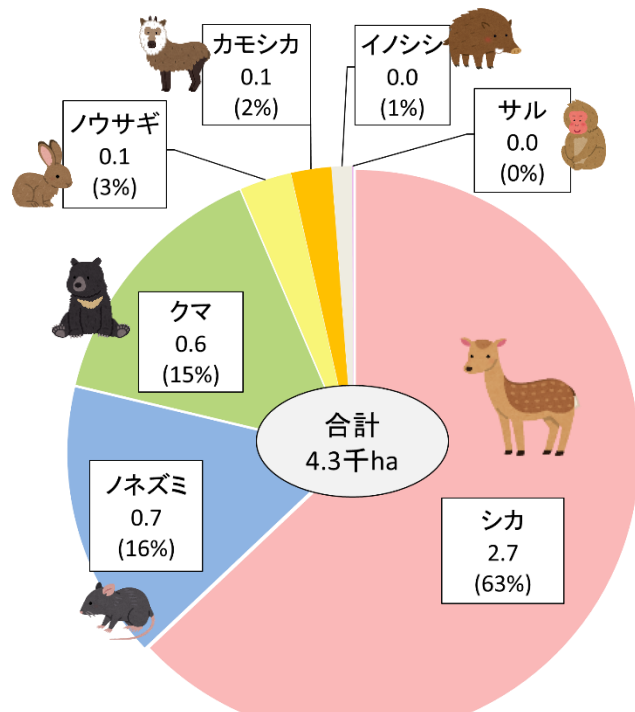
中部森林管理局における獣害対策の取り組み (ニホンジカ)

【令和8年度版】

林野庁 中部森林管理局

日本の森林における鳥獣被害

- ・日本の森林における鳥獣被害面積は、年間約4.3千haとなっています。（R6年度／林野庁調べ）
- ・このうち、シカによる枝葉の食害や剥皮被害が全体の約6割を占めていて、深刻な被害となっています。



出典：林野庁HP <https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/tyouju.html>

剥皮の状況



美ヶ原高原



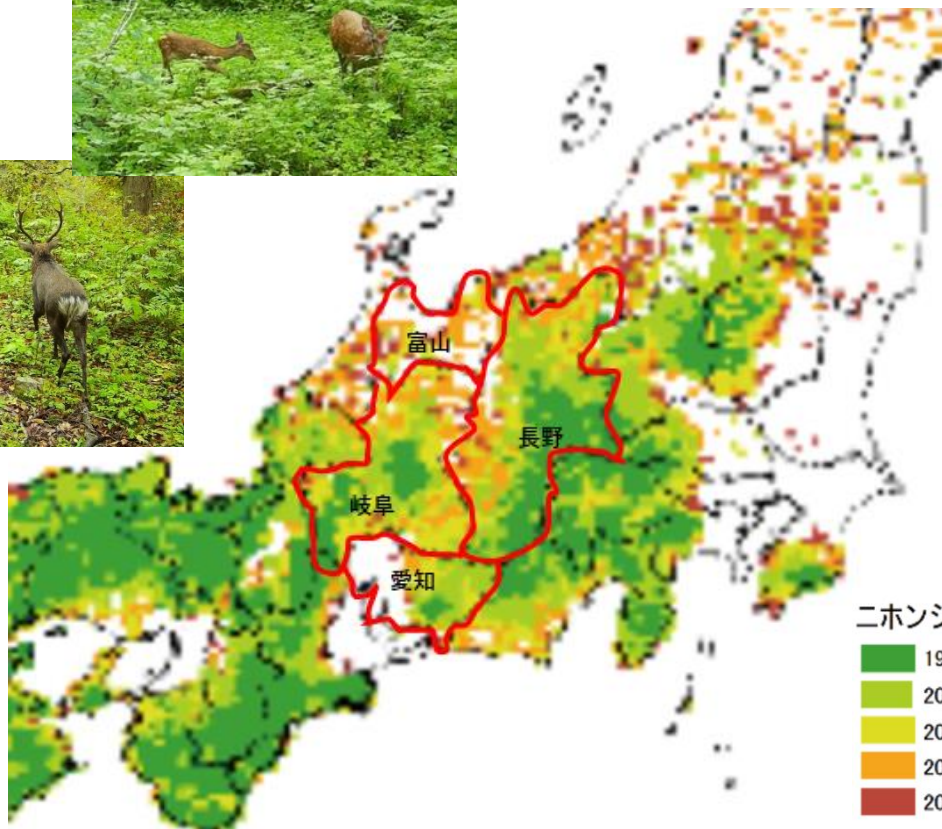
中部局管内(4県)のニホンジカ生息状況

ニホンジカの分布状況とその変化

富山署管内の国有林
で撮影されたニホンジカ



富山県では2014年度の調査以降、ニホンジカの生息が新たに確認されたエリアが多く存在し、分布が拡大しています。



ニホンジカ分布域

- 1978年度調査で生息を確認
- 2003年度調査で新たに生息を確認
- 2011年度調査で新たに生息を確認
- 2014年度調査で新たに生息を確認
- 2020年度調査で新たに生息を確認

※「令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務」(環境省)を基に中部森林管理局にて作成
2020年度(令和2年度)調査は、2018年度(平成30年度)までの捕獲データから、2021年(令和3年)3月に分布状況を取りまとめたもの。

樹木の被害



人工林ヒノキの皮剥被害(南信署)



亜高山帯の剥離被害(ハヶ岳)

高山植物の被害



中部森林管理局の取組

中部森林管理局では、ニホンジカによる被害の低減に向け、地方自治体、猟友会、対策協議会、学識経験者等と連携しながら、「守り」(防護)と「攻め」(捕獲)の両面でシカ被害対策に取り組めます。

1 ニホンジカの生息状況調査

自動撮影カメラやライトセンサス調査等により得られた情報を地域で共有し、効率的な捕獲を推進します。



2 防護柵等の設置

造林地等の植栽木保護及び高山植物等の希少植物を保護するため関係機関や地域関係者等と連携し防護柵等を設置します。



3 地域や猟友会及び事業体等との連携捕獲

委託による捕獲のほか、猟友会等へのわなの貸出し等により、地域ぐるみの取組を展開します。

また、林野庁職員が開発した、シカの習性を利用し、初心者でも高い捕獲効率が期待できる「小林式誘引捕獲法」を積極的に普及します。



小林式わなの設置を実演する講師と参加者

4 くくりワナの見回りの効率化

捕獲事業において多くの時間を要するワナの見回りの負担軽減を図るため、捕獲状況通報機器の活用を推進します。



5 ツキノワグマの錯誤捕獲防止

安全の観点からも、クマの錯誤捕獲を防止するため、回避ワナの普及を図ります。



ワイルドベアー

6 その他

鳥獣保護や狩猟に関する制度及び獣害対策について、職員の意識と知識の向上を図るため、講習会や検討会を実施します。



鳥獣保護・狩猟等に関する講習会や検討会
(南信森林管理署)

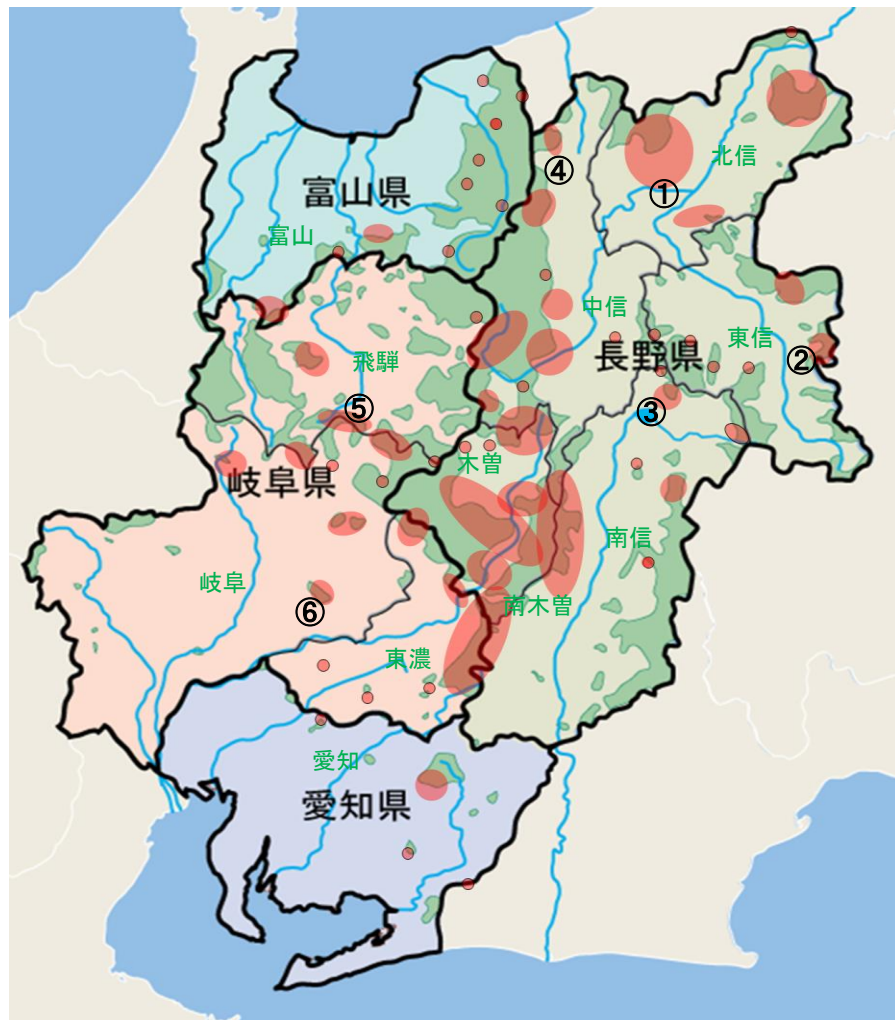


(岐阜森林管理署)

1 ニホンジカの生息状況調査

ニホンジカの生息範囲を把握するため、山地帯から高山帯の広範囲に設置した自動撮影カメラ(令和7年:222台)や夜間調査(ライトセンサス)により生息状況を調査しています。なお、調査で得られた情報は、地元市町村や猟友会等に提供するなど地域と一体となったニホンジカ対策に取り組んでいます。

自動撮影カメラのデータにより確認したニホンジカの生息状況



① (北信署 朝日山国有林)



② (東信署 荒船山国有林)



③ (南信署 東俣国有林)



④ (中信署 白馬山国有林)



⑤ (飛騨署 牛牧国有林)



⑥ (岐阜署 七宗国有林)

2 防護柵の設置

造林地等における防護柵の設置状況

新設防護柵の延長

	H20 ~21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	累計
延長 (km)	12	8	5	1	11	24	27	21	26	24	33	43	30	22	18	14	28	347



低コスト化を図るため
立木を利用した防護柵
(東濃署)

ハケ岳や八島ヶ原湿原等における保護活動

南信森林管理署では、平成22年より霧ヶ峰自然環境保全協議会と連携して、天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原周囲約4kmに防鹿柵を設置し、ハケ岳では、平成21年より南北ハケ岳保護管理協議会と連携して、21年度に麦草峠周辺の防鹿柵設置を実施し、平成28年度までの間、北ハケ岳エリアの坪庭から南ハケ岳の根石岳山荘前まで、13カ所、約3.6kmの防護柵を設置しました。

また、平成20年度から南アルプス食害対策協議会と連携して、仙丈ヶ岳の馬の背や光岳の静高平に約2.5kmの防護柵を設置しました。

現在も協議会員の協力のもと、継続的な維持管理を実施しています。



電気柵設置



食害の様子
(スマホの写真は食害前)

高山植生の変化（ハケ岳 麦草峠園地）



ボランティアによる高山帯での
防護柵設置作業(南信署)

ハケ岳の麦草峠園地では、平成21年に防護柵を設置し、現在は元の姿に戻りつつあります。



食害前（～平成10年）
様々な高山植物が色鮮やかに開花している。



食害発生(平成20年頃)
シカの食害により高山植物が衰退し、全体が草地となる。



柵設置後(平成30年～)
防護柵により、高山植物が徐々に回復している。

3 地域や猟友会及び林業事業体等との連携による捕獲

捕獲に関する覚書・協定

◆「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲推進に関する覚書」(平成29年11月2日締結)

長野県、長野県猟友会、中部森林管理局の三者において締結。野生鳥獣による農林業被害の軽減及び自然生態系への影響の軽減を図るため、個体数管理により適正な生息密度に誘導する取組を連携して推進することを目的とし、各地域における国有林野内での捕獲に関する協定の締結、関係者間の合意形成、情報共有等により捕獲の推進を図る。

◆「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定書」

各地区猟友会と森林管理署の間で締結。国有林野内の捕獲における相互連携及び国有林林道等の活用による、効率的かつ効果的な捕獲の推進。

- 北信森林管理署（木島平村内の国有林野）
（相手方）木島平村猟友会（立会人）木島平村有害鳥獣駆除対策協議会
- 北信森林管理署（信濃町内の国有林野）
（相手方）信濃町猟友会（立会人）信濃町有害鳥獣駆除連絡協議会
- 東信森林管理署（佐久地域内の国有林野）
（相手方）北佐久連合猟友会、南佐久連合猟友会（立会人）佐久地区野生鳥獣保護管理対策協議会
- 南信森林管理署（下諏訪町内の国有林野）
（相手方）下諏訪町猟友会（立会人）下諏訪町野生鳥獣対策協議会、下諏訪町
- 南信森林管理署（伊那市内の国有林野）
（相手方）上伊那猟友会（立会人）伊那市
- 木曽森林管理署及び南木曽支署（木曽地域における国有林野）
（相手方）木曽猟友会（立会人）長野県木曽地域振興局（木曽地区野生鳥獣保護管理対策協議会）
- 愛知森林管理事務所（設楽町内の国有林野）
（相手方）設楽町猟友会（立会人）新城・北設広域鳥獣害対策協議会

国有林における鳥獣捕獲を推進するため 新たな協定を締結

令和8年3月23日、長野県の立会の下、長野県認定管理捕獲技術者と北信森林管理署長との間で「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定」を締結しました。

本協定は、ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念される保科山国有林（長野県長野市）において捕獲を推進するとともに、国有林野を活用した認定管理捕獲技術者のスキルの維持・向上や、捕獲等に関する調査・分析を目的としています。

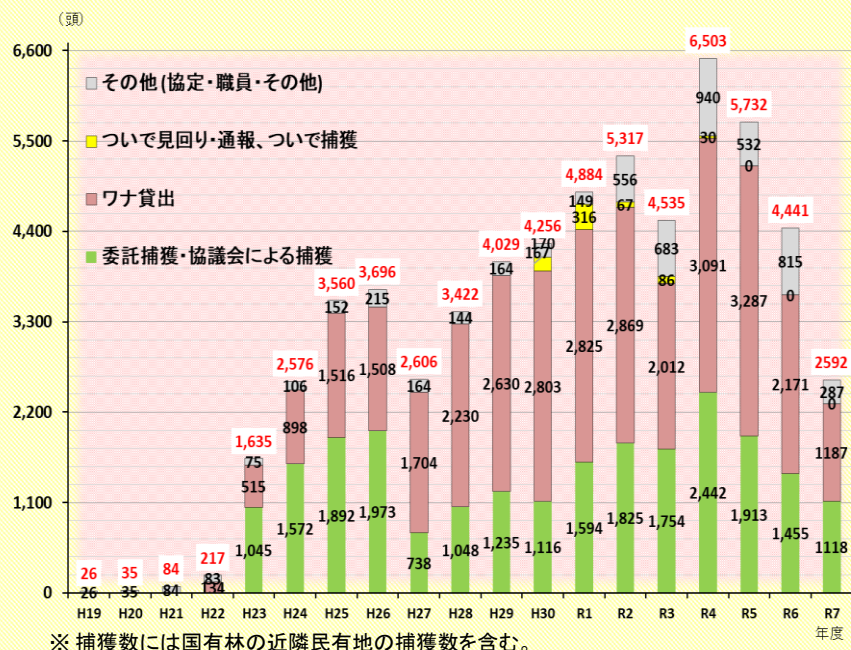


協定書を手にする代表者

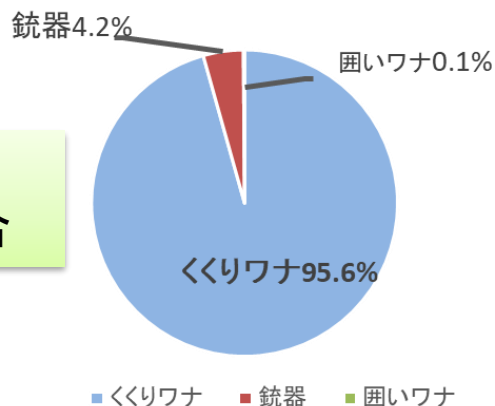
中部森林管理局管内における捕獲の状況

国有林野内におけるニホンジカ捕獲は、平成19年に職員実行により開始し、平成22年からくくりワナの貸出、平成23年から猟友会への捕獲委託、平成30年からは「ついで捕獲」、「ついで見回り・通報」等を行っています。

シカ捕獲頭数(平成19年度～令和7年度)



令和7年度 捕獲方法別の割合



鳥獣捕獲委託先・ワナ貸出先一覧

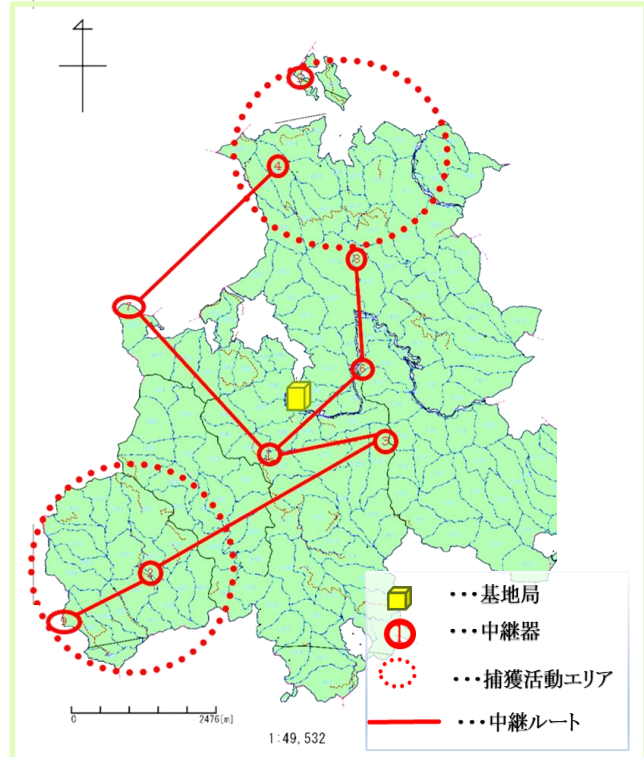
署等名	委託契約先及びくくりワナ貸出先	団体数
富 山		0
北 信	JA長野第一有害鳥獣対策協議会、長野市戸隠支所・鬼無里支所、信濃町猟友会、木島平村猟友会	5
中 信	大北地区猟友会大町支部、大町市、白馬村、松川村、一般財団法人 自然公園財団 上高地支部	5
東 信	北佐久連合区猟友会、東御市猟友会、真田町猟友会、上小広域捕獲推進協議会、南佐久地区猟友会、美ヶ原牧場畜産農業協同組合、小諸市猟友会、軽井沢町猟友会	8
南 信	富士見町、茅野市、原村、下諏訪町、伊那市、宮田村、豊丘村、飯田市、阿智村、下諏訪猟友会、伊那猟友会、宮田村猟友会、中川村猟友会、飯伊連合猟友会、飯田市連合猟友会上村支部、霧ヶ峰草原再生協議会、南北八ヶ岳保護管理運営協議会、中央アルプス野生動物対策協議会、南アルプス食害対策協議会	19
木 曽	木祖村猟友会、木曽猟友会三岳支部、木曽猟友会日義支部、木曽猟友会日義支部 木曽猟友会	5
南木曽	南木曽町、大桑村、南木曽支部猟友会	3
飛 騨	飛騨猟友会	1
岐 阜	岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会、郡上市猟友会、七宗町猟友会	3
東 濃	中津川市神坂支部猟友会、恵那市猟友会、中津川市中津支部猟友会	3
愛 知	設楽町猟友会	1
計		53

(注): 〃は、有害鳥獣管理業務委託先。

4-1 くくりわな見回りの効率化(わな捕獲通報システムの導入)

奥地山間部でのニホンジカ捕獲では、わなの見回りが大きな負担となっていることから、携帯電話の圏外地域でも使用できるわな捕獲通報システムにより、見回り労力の負担軽減に取り組んでいます。

遠距離通報システムの構築(愛知森林管理事務所)



段戸国有林における捕獲エリアと
基地局及び中継器の設置状況



ICTセンサーの伝達フロー



4-2 くくりわな見回りの効率化(監視用PTカメラの導入と検証)

スマートフォン等で現地の状況をリアルタイムで確認可能なカメラを導入し、くくりわな捕獲における見回りコスト・労力の軽減に向けた取組を行っています。

遠隔視聴可能なPTカメラ(遠隔首振りカメラ)による見回り(南信森林管理署)

防犯・防獣用通信カメラ MC1(自動撮影カメラ)

電源はソーラーパネルのため、電池交換は不要です。携帯の電波圏内ならスマートフォンからリアルタイムで遠隔視聴可能です。また、カメラの首振り機能により、広範囲に設置したくくりわなの確認も可能です。(NTT docomoの4G回線を使用)



製造元: 株式会社Azx(株式会社エイザックス)

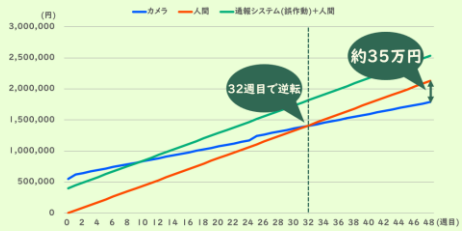
くくりわな見回りのコストシミュレーション

カメラ、人間、通報システムの3項目について、1週間運用した時にかかる見回りコストと時間をそれぞれ算出し、シミュレーションを行った結果です。

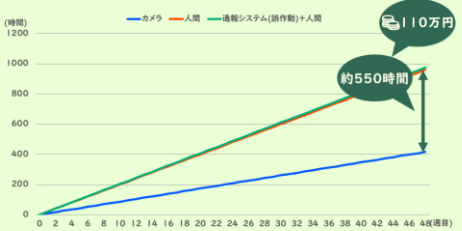
	初期コスト	運用費	人件費	燃料代	合計コスト	見回り時間
カメラ	550,000	100,000	22,000	1,750	673,750	8.67
人間	0	0	40,000	4,375	44,375	20
通報システム(誤作動)+人間	400,000	4,950	40,000	4,375	449,325	20.33

※初期コスト、運用費、人件費、燃料代、合計コストは「円」単位

同条件で一定期間の使用により、見回りコスト及び労力の軽減が確認されました。



見回りコストの比較



見回り労力の比較

令和7年度 取り組み状況

長野県諏訪郡下諏訪町「東俣国有林」にて実施しました。



クマの錯誤捕獲時にも安全に対応可能！

遠隔視聴による錯誤捕獲確認後、その場で自治体へ連絡ができるため、迅速且つ安全な対応が可能です。



現在使用中の通報システム一覧

取組署等	センサー	使用機器 導入年度	使用数（子機）	取組署等～現地までの距離		取組署等～現地 までの所要時間
				直線距離	道路距離	
中信署	マグネット着脱式	R3	20	約23km	約54km	約120分
東信署	マグネット着脱式	H27	20	約12km	約16km	約30分
南信署	マグネット着脱式	H30	16	約35km	約48km	約110分
木曽署	マグネット着脱式	R3	3	約22km	約27km	約40分
岐阜署	マグネット着脱式	R2	17	約37km	約60km	約80分
愛知所	赤外線感应型	R1	50	約25km	約45km	約75分

参考：農林水産省HP「鳥獣被害対策に活用出来る機器情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/kiki_jouhou/kiki_jouhou.html



5 新たな捕獲技術の検証

◆錯誤捕獲防止対策

くくりわなには、捕獲目的でない他の動物が捕獲(錯誤捕獲)されることがあります。特に、ツキノワグマの錯誤捕獲は危険な放獣作業が必要なため、シカ対策において大きな課題です。このため、クマの錯誤捕獲を回避できるわなの効果や捕獲効率の検証に取り組んでいます。

◆ブロックディフェンスとくくりわなを組み合わせた捕獲

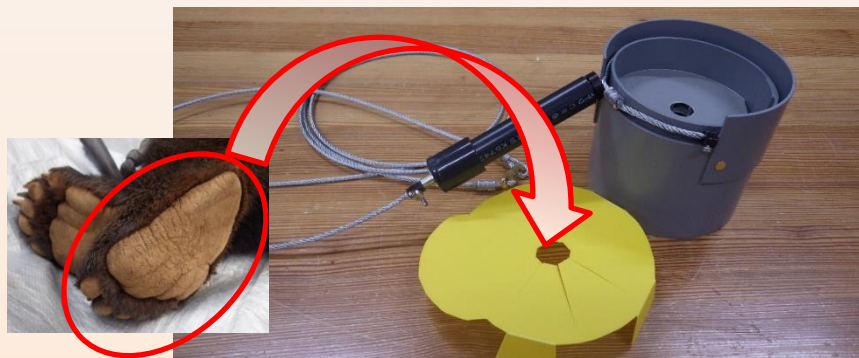
シカが利用していた既存の作業路を遮断しないように、作業路の上部と下部をブロック状に分けて防護柵を設置し、防護柵間の作業路を通り道として利用するシカの捕獲を行なっています。

くくりわなの錯誤捕獲防止対策

【ワイルドベアー】 通常のくくりわなと同様に、台座に足を乗せ踏み込むと作動しますが、クマの生態を考慮し、ゴムチューブを噛んで引っ張ることにより、自ら解除できるよう改良されたわな。



【ベアウォーク】 脚の細いシカは踏み抜けるが、クマの平足では踏み抜けない形状のプレートと、踏み込み式のくくりわなを組み合わせることにより、クマ錯誤捕獲を回避する。



ブロックディフェンスとくくりわな捕獲

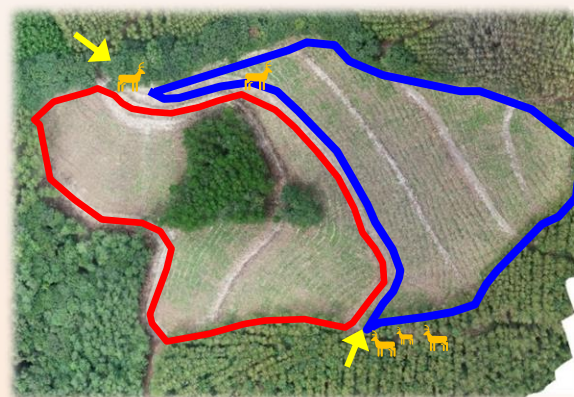
シカの通り道が限定されることで、効果的な捕獲が期待されます。令和6年度は、通り道の出入り口を中心に誘引捕獲を実施し、給餌方法と誘引方法を検証しました。



シカの移動の様子



捕獲の様子



造林地全体のブロックディフェンスの配置

南信森林管理署
(東俣国有林)

凡例	
	道上柵
	道下柵